

クリンダマイシンリン酸エステル注 300mg 「F」 クリンダマイシンリン酸エステル注 600mg 「F」

【この薬は？】

販売名	クリンダマイシンリン酸 エステル注 300mg 「F」 CLINDAMYCIN PHOSPHATE injection	クリンダマイシンリン酸 エステル注 600mg 「F」 CLINDAMYCIN PHOSPHATE injection
一般名	クリンダマイシンリン酸エステル Clindamycin Phosphate	
含有量 (1 アンプル中)	300mg (力価)	600mg (力価)

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するとき特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、リンコマイシン系抗生物質と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、感染症の原因である細菌の増殖を阻止し、炎症症状を改善します。
- ・次の病気の人に処方されます。

＜適応症＞

敗血症、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、中耳炎、副鼻腔炎、顎骨周辺の蜂巣炎、顎炎

＜適応菌種＞

クリンダマイシンに感性的ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属、マイコプラズマ属

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- 次の人は、この薬を使用することはできません。
 - ・過去にクリンダマイシンリン酸エステル注に含まれる成分やリンコマイシン系抗生物質に対し過敏症のあった人
- 次の人は、慎重に使う必要があります。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。
 - ・高齢の人、衰弱している人、過去に大腸炎などにかかったことのある人
 - ・肝臓に障害のある人
 - ・腎臓に障害のある人
 - ・アトピー性体質の人
 - ・重症筋無力症の人
- この薬には併用してはいけない薬 [エリスロマイシン (エリスロシン等)] や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

- ・この薬は注射薬です。
- 使用量および回数**
 - ・使用量、使用回数等は、あなたの症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において注射されます。
 - 通常の使用量および回数は、次のとおりです。

【点滴静脈内注射】

	成人	小児
1日量 (小児は体重から計算)	クリンダマイシンとして 600～1,200mg (力価)	クリンダマイシンとして 15～25mg (力価) /kg
1日最高量 (難治性又は重い感染症の場合)	クリンダマイシンとして 2,400mg (力価)	クリンダマイシンとして 40mg (力価) /kg
注射する回数	1日に2～4回、 30分～1時間かけて 点滴静注します。	1日に3～4回、 30分～1時間かけて 点滴静注します。

【筋肉内注射】

	成人
1日量	クリンダマイシンとして 600～1,200mg (力価)
注射する回数	1日に2～4回、筋肉内注射します。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬により、まれに発熱、腹痛、白血球増多、粘液・血液便を伴う激症下痢を主な症状とする重篤な大腸炎である偽膜性大腸炎があらわれることがあります。
使用している間または使用后2～3週間までに腹痛、頻回な下痢があらわれた場合には、ただちに使用を中止し、医師に連絡してください。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。

- ・授乳を避けてください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック	冷や汗、めまい、意識がうすれる、考えがまとまらない、血の気が引く、息切れ、判断力の低下
アナフィラキシー	からだがだるい、ふらつき、意識の低下、考えがまとまらない、ほてり、眼と口唇のまわりのはれ、しゃがれ声、息苦しい、息切れ、動悸（どうき）、じんましん、判断力の低下
偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎 ぎまくせいだいちょうえんとうのけつべんをともなうじゅうとくなだいちょうえん	嘔吐（おうと）、むかむかする、腹痛、下痢、血が混ざった便、発熱、頻回な下痢、血の混じった下痢
中毒性表皮壊死融解症 (Toxic Epidermal Necrolysis : TEN) ちゅうどくせいひょうひえしゆうかいしょう（トキシックエピダーマルネクロリシス：テン）	からだがだるい、関節の痛み、全身の赤い斑点と破れやすい水ぶくれ(水疱)、発熱、食欲不振
皮膚粘膜眼症候群（ステイブンスージョンソン症候群） ひふねんまくがんしょうこうぐん（ステイブンスージョンソンしょうこうぐん）	からだがだるい、高熱、発熱、まぶたや眼の充血、結膜のただれ、ひどい口内炎、唇や口内のただれ、食欲不振、赤い発疹、中央にむくみをともなった赤い斑点、陰部の痛み
急性汎発性発疹性膿疱症 きゅうせいはんぱつせいほっしんせいのうほうしょう	からだがだるい、高熱、皮膚の広い範囲が赤くなる、赤くなった皮膚上に小さなブツブツ（小膿疱）が出る、食欲不振
剥脱性皮膚炎 はくだつせいひふえん	発熱、かゆみ、全身の発赤（ほっせき）、皮膚の表面がはがれおちる
薬剤性過敏症症候群 やくざいせいかびんしょうしょうこうぐん	からだがだるい、リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ、発疹、全身の発赤、発熱、のどの痛み
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	発熱、から咳、息苦しい、息切れ
PIE症候群 ピーアイイーしょうこうぐん	発熱、咳、息苦しい、息切れ

重大な副作用	主な自覚症状
心停止 しんていし	意識がなくなる、呼吸停止
汎血球減少 はんけつきゅうげんしょう	めまい、鼻血、耳鳴り、歯ぐきの出血、息切れ、動悸（どうき）、あおあざができる、出血しやすい
無顆粒球症 むかりゅうきゅうしょう	発熱、のどの痛み
血小板減少 けっしょうばんげんしょう	鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、皮下出血、出血が止まりにくい
肝機能障害 かんきのうしょうがい	からだがだるい、白目が黄色くなる、吐き気、嘔吐（おうと）、食欲不振、かゆみ、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿が褐色になる
急性腎障害 きゅうせいじんしょうがい	からだがだるい、からだのむくみ、疲れやすい、意識の低下、頭痛、眼がはれぼったい、息苦しい、尿がでない、尿量が減る

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷や汗、からだがだるい、ふらつき、発熱、関節の痛み、全身の赤い斑点と破れやすい水ぶくれ(水疱)、高熱、からだのむくみ、疲れやすい、リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ
頭部	めまい、意識がうすれる、考えがまとまらない、意識の低下、意識がなくなる、頭痛
顔面	血の気が引く、ほてり、鼻血
眼	眼と口唇のまわりのはれ、まぶたや眼の充血、結膜のただれ、白目が黄色くなる、眼がはれぼったい
耳	耳鳴り
口や喉	しゃがれ声、眼と口唇のまわりのはれ、嘔吐（おうと）、ひどい口内炎、唇や口内のただれ、から咳、咳、歯ぐきの出血、のどの痛み、吐き気
胸部	息切れ、息苦しい、動悸（どうき）、むかむかする、呼吸停止、吐き気
腹部	むかむかする、腹痛、頻回な下痢、食欲不振、吐き気
手・足	関節の痛み
皮膚	じんましん、全身の赤い斑点と破れやすい水ぶくれ(水疱)、赤い発疹、中央にむくみをともなった赤い斑点、皮膚の広い範囲が赤くなる、赤くなった皮膚上に小さなブツブツ（小膿疱）が出る、全身の発赤、皮膚の表面がはがれおちる、かゆみ、発疹、あおあざができる、皮下出血、皮膚が黄色くなる
便	下痢、血が混ざった便、血の混じった下痢

部位	自覚症状
尿	尿の色が濃くなる、尿が褐色になる、尿がでない、尿量が減る
その他	判断力の低下、陰部の痛み、出血しやすい、出血が止まりにくい

【この薬の形は？】

販売名	クリンダマイシンリン酸 エステル注 300mg 「F」	クリンダマイシンリン酸 エステル注 600mg 「F」
形状		
性状	無色～淡黄色澄明の液	
pH	6.0～7.0	
浸透圧比	約3（生理食塩液に対する比）	

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	クリンダマイシンリン酸エステル
添加物	ベンジルアルコール、pH調節剤（塩酸、水酸化ナトリウム）

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：富士製薬工業株式会社 (<http://www.fujipharma.jp/>)

学術情報課

電話番号：076-478-0032

受付時間：9時～17時

（土、日、祝日、その他当社の休業日を除く）